

2018年度（2019年3月期） 連結決算概要

1. 2018年度（2019年3月期） 決算実績 <対前期>

(1) 決算実績のポイント 増収増益：増収は2期連続、増益は2期連続（純利益ベース）

都市ガス販売量	△370百万m ³	：高気温影響による家庭用需要減
電力販売量	+826百万kWh	：小売件数増による販売量増
売上高	+1,850億円	：原料費調整に伴う単価増などによる「ガス」の売上増 +1,089億円 ：小売電力販売量増などによる「電力」の売上増 +617億円
営業費用	+2,076億円	：原油価格上昇影響などによる都市ガス原材料費等増 +1,198億円（当期7,399億円←前期6,201億円） ：小売電力販売量増に伴う電力営業費増 +611億円（当期2,701億円←前期2,090億円） ：年金数理差異償却額の増加 +123億円
営業外損益	+4億円	：専用設備料収入 +7億円
特別損益	+246億円	：（当期）固定資産売却益 +293億円 投資有価証券売却益 +64億円 投資有価証券評価損 △78億円 ：（前期）固定資産売却益 +34億円 投資有価証券売却益 +30億円 減損損失 △32億円
配当金		：期末配当金は、1株当たり32.5円を予定しております（1株当たり年間配当額60円）。 ：240億円・10百万株（2.2%）を上限に自己株式取得を実施します。

<2019年3月末現在連結会社数：連結子会社78社、持分法適用関連会社14社> (単位:億円)

決算実績表	2018年度	2017年度	増減	%
売上高 (歴代3位)	19,623	17,773	1,850	10.4
営業費用	18,686	16,610	2,076	12.5
営業利益 (歴代18位)	937	1,163	△226	△19.4
経常利益 (歴代13位)	893	1,115	△222	△19.9
親会社株主に帰属する当期純利益 (歴代7位)	845	749	96	12.8

<参考値>（符号は利益に対する影響を示す）

スライドタイムラグ(※)	△250	△230	△20
年金数理差異償却額影響	△46	77	△123

(※)原料費調整制度において原油価格の上昇(下落)に伴う原材料費の増加(減少)が売上高の増加(減少)に先行することによる一時的な利益差異。

経済フレーム	2018年度	2017年度	増減
為替レート(¥/\$)	110.92	110.85	0.07
原油価格(\$/bbl)	72.12	57.04	15.08
平均気温(°C)(※)	17.0	15.7	1.3

(※)お客さまそれぞれのご使用期間（前月の検針日から当月の検針日まで）における気温を平均したものを。

(2) 都市ガス・電力販売量

		2018年度	2017年度	増減	%
都市ガス	家庭用	百万m ³ 3,240	3,570	△330	△9.2
	業務用	百万m ³ 2,609	2,722	△113	△4.2
	工業用	百万m ³ 7,413	7,290	123	1.7
	計	百万m ³ 10,022	10,012	10	0.1
	他事業者向け供給	百万m ³ 1,936	1,985	△49	△2.5
	合計	百万m ³ 15,198	15,568	△370	△2.4

家庭用：高気温影響による需要減
業務用：件数減
工業用：発電用需要増
他事業者向け供給：供給先の需要減

小売お客さま件数(千件)：9,821 (対前期△388) ※小売お客さま件数は、ガス小売事業者としてのガス料金請求対象件数。

取付メーター数(千件)：11,818 (対前期+140) ※取付メーター数は、休止中・閉栓中・他社小売分を含む導管事業者としてのメーター取付数。

		2018年度	2017年度	増減	%
電力	小売	百万kWh 6,555	4,569	1,986	43.5
	卸他	百万kWh 8,926	10,087	△1,161	△11.5
	合計	百万kWh 15,482	14,656	826	5.6

小売：件数増による販売量増
卸他：卸供給先減等

(3) セグメント別売上高・セグメント利益

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	2018年度	2017年度	増減	%	2018年度	2017年度	増減	%
ガス	14,137	13,048	1,089	8.3	922	1,190	△268	△22.5
電力	2,803	2,186	617	28.2	101	96	5	5.7
海外	509	415	94	22.5	153	77	76	98.8
エネルギー関連	3,635	3,336	299	9.0	111	119	△8	△6.4
不動産	446	423	23	5.4	91	79	12	14.6
その他	1,078	850	228	26.9	62	43	19	45.3
調整額	△2,986	△2,487	△499	—	△478	△418	△60	—
連結	19,623	17,773	1,850	10.4	964	1,187	△223	△18.8

(注)・セグメント別売上高には事業間の内部取引を含んでいる。
・セグメント利益には持分法損益を含んでいる。セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配賦していない全社費用。
・「ガス」の主要な製品・サービスは、都市ガス、リキッドガス事業（液化石油ガス、産業ガス）、LNG販売等。
・「エネルギー関連」の主要な製品・サービスは、エネルギーソリューション事業（エネルギーソリューション、エネルギーサービス等）、ガス器具、ガス工事、建設等。

(4) 主要計数

(単位:億円、%)

	2018年度	2017年度	増減		2018年度	2017年度	増減
設備投資	2,237	2,087	150	D/Eレシオ	0.69	0.64	0.05
営業キャッシュ・フロー	2,464	2,403	61	ROA	3.6	3.3	0.3
有利子負債	8,032	7,249	783	ROE	7.4	6.7	0.7

(注)有利子負債、D/Eレシオは2018年3月末との比較

2. 2019年度（2020年3月期） 業績予想

(1) 通期見通しのポイント 対前期 増収増益（当期純利益ベース）

都市ガス販売量	△657百万m ³	：需要脱落による工業用の減、前年度高気温影響の解消 等
電力販売量	+4,459百万kWh	：小売件数増、真岡発電所稼働による販売量増
売上高	+807億円	：電力販売量増に伴う「電力」の売上増+768億円
営業費用	+524億円	：販売量増加及びシステム費用増に伴う「電力」の費用増+760億円
営業利益	+283億円	：ガス+299億円（スライド改善等） 他
特別損益	△278億円	：（前期）固定資産売却益 +293億円 投資有価証券売却益 +64億円 投資有価証券評価損 △78億円

(単位:億円)

	2019年度	2018年度	増減	%
都市ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	14,541	15,198	△657	△4.3
電力販売量(百万kWh)	19,941	15,482	4,459	28.8
売上高	20,430	19,623	807	4.1
営業費用	19,210	18,686	524	2.8
営業利益	1,220	937	283	30.2
経常利益	1,200	893	307	34.2
親会社株主に帰属する当期純利益	860	845	15	1.7

経済フレームほか	2019年度	2018年度	増減
為替レート(¥/\$)	110.00	110.92	△0.92
原油価格(\$/bbl)	70.00	72.12	△2.12
平均気温(°C)	15.9	17.0	△1.1
スライドタイムラグ(億円)	91	△250	341

為替・原油変動の都市ガス粗利影響感度

(単位:億円)

	売上高	原料	営業利益
円・ドルレートが¥1/\$円安	44	51	△7
原油価格JCCが\$1/bbl上昇	46	59	△13